

第二のふるさとで ぶどう農家として生きていく



△自らの園地で夫婦そろってぶどうの摘果を行う山田さんたち

地域おこし協力隊からぶどう農家へ

鶴田町地域おこし協力隊として活動してきた山田俊さんが、6月末で3年間の任期を終え、ぶどうの新規就農者として第一歩を踏み出し始めました。

山田さんは岐阜県可児市出身。大学を卒業後、東京都の企業に勤務。大都市圏で生活し、変化の激しい仕事に身を置く中、自身の将来に不安を感じ、手に職を付けたいという思いから「農業」に関心を高め、2018年退職。その年の7月に妻・園実さんと夫婦で、町最初となる地域おこし協力隊に着任しました。今年の3月には、ぶどう栽培を引退した町内の農家から園地56坪を買い取り、ぶどう農家となりました。

6月30日（水）、役場で行われた退任式に家族三人で訪れた山田さんに、相川町長から感謝状が贈られました。相川町長は「町最初の地域おこし協力隊として着任してもらい、見本になる活動をしてもらったと思います。昨年には家族が1人増え、今年の3月には3年間技術を磨いてきたスチューベンの畑を購入し、ぶどう農家としての決意を示してくれました。これからも園地の面積を増やししながら、この地域でいつまでも頑張ってほしい」とエールを送りました。

山田さんは「三年間の任期はあっという間でした。3年間の中で一番思い出に残っていることは、鶴田町の人たちの温かさです。少し歩くだけでもいろんな人からあいさつをしてもらい、こんなところで子育てしていきたいと思いました。これからはぶどう農家として生計を立てられるようにしていきたい、鶴田スチューベンの良さを全国に広めていきたい」とこれからの抱負を語っていました。



△相川町長から感謝状を受け取った山田俊さん

山田さんの これまでの歩み

協力隊として、農作業を体験しながらSNSで「つるたスチューベン」や町の魅力を発信し、併せて将来的な就農も視野に津軽ぶどう協会の成田会長に師事し、ぶどう栽培に関する専門的知識を学んできました。

1年目



1年目（平成30年7月～令和元年6月）

- ・町内の各種イベント等に参加し、町民とふれあい町の魅力を発信。
- ・町内農家のりんごやぶどうの作業体験・手伝い
- ・スチューベンの皮を使った草木染め体験で講師を務める。（旧胡桃館小学校の親子レク）

2年目



2年目（令和元年7月～令和2年6月）

- ・成田会長の園地の一部で、会長の指導のもとからスチューベンの栽培管理を任せられ、ぶどうの栽培技術を学ぶ
- ・東京都内のアンテナショップでスチューベンのPR・店頭販売実施
- ・青森暮らしセミナー移住相談会に参加し移住相談対応

3年目（令和2年7月～令和3年6月）

- ・ぶどうの栽培管理から収穫・出荷までの作業を通して実践
- ・8月に、第一子誕生。妻・園実さんが育児休暇取得
- ・観光ぶどう園の開園期間中、スチューベン草木染め体験会を実施
- ・令和3年3月、ぶどう園地56㌖を購入。ぶどう農家として第一歩を踏み出す。

3年目



これからの展望

山田さんはこれから自らの園地で観光ぶどう園を行うことが当面の目標。また、観光ぶどう園で食べたぶどうの皮を使った草木染めを体験できるようにもしていきたいそうです。

山田さんの園地では現在、スチューベンとは別に、「はちみつぶどう」という品種も栽培しているそうで、この他にも様々な品種にも取り組みたいそうです。

また、インターネットによるぶどうの直販や加工品の製造販売も目指しており、ぶどう草木染めキットの製作・販売なども視野に入れているそうです。

最後に、自分たちがしてもらったように、鶴田町に移住を考えている人の窓口になれるよう、ぶどう栽培の研修先として協力をしていきたいそうです。

